

第9回水難学会総会・学術講演会（令和元年・東京都）発表抄録

「水の事故を目撃した際にあなたがとる行動順位」市民アンケートの結果から考える
水辺のチェーンオブサバイバルとは

1・背景

消防職員等は各種救命講習会の指導の際に、心肺停止傷病者の社会復帰率向上を目指し、心停止の予防・早期認識と通報・一次救命処置・2次救命処置が連鎖することにより蘇生率が上がることを市民に対し伝えており、救命講習等の資料には広くチェーンオブサバイバル（救命の連鎖）のイラストが用いられている。水の事故時におけるチェーンオブサバイバルは水難学会指導員養成講習会テキストにおいて第2章で解説があり背浮きによる呼吸の確保・119番通報・専門部隊による救助活動と医療機関へ搬送と記されている。

2・目的

水の事故時における対処方法は近年、水難学会及びその指導員が全国のみならず世界で普及活動を行い、徐々に認識されてきているが、その特殊性から一般的にはまだまだ広く認知されていない。そこで今回は水の事故を目撃した際に一般市民はどの順番で行動するか認識調査を行い、水辺のチェーンオブサバイバルを具体化することを目的とした。

3・方法

当市では、三郷市小学生着衣泳法普及推進事業の一環として、一昨年よりみさと救急フェスタにおいて出張ミニういてまて教室を行っている。昨年度のイベント時において来場者に対して「水の事故を目撃した際にあなたがとる行動順位」アンケートを行い、認識度を調査することとした。ブースに立ち寄った来場者を無作為に選出し、設問のパネルに自分が考える行動順位の該当箇所にシールを貼る方式とした。

4・結果

アンケートに協力していただけたかたは90名で、設問は「川で溺れている人を発見しました。あなたがとる行動を3つ順番にシールを貼ってください」として行動パターンを4つ（泳いで助けに行く・119番通報・浮くものを投げる・周りの人を呼ぶ）に分け、1番初めにとる行動から2番目、3番目にとる行動までを順番に貼ってもらった。結果は、1番初めにとる行動として「浮くものを投げる（48名）」が最も多く、2番目の行動として「119番通報（38名）」、3番目の行動として「周りの人を呼ぶ（59名）」という順番となった。

5・結論

心肺停止でのチェーンオブサバイバルは、心停止の予防から始まり2次救命処置と心拍再開後集中治療までを4つの鎖で図示化されている。そこで水辺でのチェーンオブサバイバルはどうあるべきかを考えたときに、本アンケート結果と近年の法改正（平成30年2月からすべての小型船舶の乗船者にライフジャケットの着用義務化など）をもとに単純に並べると①ライフジャケット着用で予防②浮くものを投げる③119番通報④周りの人を呼ぶという順となった。

今回は市民アンケートをもとに水辺のチェーンオブサバイバルを考えたが、今後は水難学会とともに防ぎえた溺死を0にするための最も有効な行動パターンを考え、一般市民が水の事故に遭遇した際の行動順位を瞬時に思い出させるために心肺停止の救命の連鎖イラストに準じた水辺のチェーンオブサバイバルを図示化して、視覚的にPRしていくことで水難事故死減少に繋がると感じた。